

《平成 30 年度 千葉市発達障害者支援センター運営事業報告》

前年度に引き続き、相談業務、講師派遣、サロン、子育てアシスト(年中児集団行動観察)、ペアレント・トレーニング、普及啓発を行っている。

1. 相談業務

(1)相談件数(H30.4.1～H31.3.31)

○実支援人数 951 人→前年度より 5.2%増(H29 年度 904 人)

○延支援件数 4,039 件→前年度より 18.7%増(H29 年度 3,402 件)

(2)相談支援・発達支援状況

相談支援・発達支援は日常生活(コミュニケーション、行動上のこと、学校や所属機関でのこと等)の様々な相談に応じている。また必要に応じて所属機関(保育所、幼稚園、学校、福祉施設、医療機関等)と連携・協働し、本人や家族が安心して過ごせる環境を作るための支援も行っている。

18 歳以上が全体の 57.3%であり、成人期以前と以降の相談の割合が概ね半々である。家族・本人からの相談が中心であり、家族の相談は情報提供や生活における困難さへの具体的なアドバイスが中心であるが、本人の相談はカウンセリング的な要素の強いものが多い。

ひきこもりを主訴とする相談の中でも、精神疾患や家庭環境に課題を抱えているなど、問題が複雑になっているケースは早期に次のステップには結びつきにくくなっている。一方で数年間にわたる継続した支援を行うことで次のステップにつながったケースも増加してきている。ひきこもりケースでは自立に関わる相談が中心となるが、年齢層が幅広く、生活状況に応じたきめ細かい支援が必要である。そのためには各関係機関とのより緊密な支援ネットワーク作りが求められている。

18 歳未満の相談のうち、幼児期から小学校低学年ごろの相談では、身辺自立や対人関係、学習面の支援等、発達障害の特性から生じる問題に関する相談が多く、対応へのアドバイスが中心となっている。高学年から中学生以降では、保護者から本人へと相談主体が移行していく時期でもあり、必要に応じて親子それぞれに相談時間を設ける形で対応している。

18 歳未満の全相談のうち 20.9%が乳幼児期、小学生が 34.7%、中学生が 27.2%、高校生年代が 17.2%となっており、他の年齢段階に比べ中学生の相談が多くなっている。

中学生期の相談が多い理由として、障害特性により社会的コミュニケーションや身辺自立に未熟さがあるにもかかわらず、周囲から年齢相応のスキルや自主性を要求される場面が増え、不適応のリスクが高まる時期であることが考えられる。また思春期を迎えることで、本人が保護者や教員など身近な大人からのサポートを受け入れ難く感じたり、反抗や黙り込

みから大人側も本人の心情に沿い難く感じ、第三者の介入が必要となるケースが多いことも影響していると思われる。

(3)相談支援・就労支援状況

就労準備支援では、相談者の自己理解を深めることを主眼に置き支援を行っている。発達障害者支援センターでの相談だけでなく、千葉障害者職業センターの職業相談や評価、発達障害者支援カリキュラム等の活用を勧め、自身の特性を具体的に把握し、自分に合った働き方を考えられるよう相談を進めている。その他の就労支援機関を利用されている方も多いため、各関係機関との情報共有を適宜行っている。就職活動支援では、ハローワーク専門援助部門やハローワークプラザちば等との連携の他、民間求人サイト等の情報提供も行い、一人一人に合った仕事を見つけられるようなサポートを行っている。

今年度の就職者数は 17 名で、9 割が障害者雇用枠の採用であった。主な就業先は一般事務(事務補助)、農園、介護職、店舗接客、施設スタッフ等である。定着支援は会社訪問や千葉障害者職業センター、ジョブコーチ支援との連携を中心に行った。有職者からの相談が全就労相談の半数を超えており、就労後の相談ニーズが高いことが伺われる。障害者雇用が進むことで、今後ますます定着支援や、関係機関と連携してのサポート体制づくりが必要になると思われる。

2. 講師派遣

(1)外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)

幼稚園・保育所(園)や各種学校、福祉施設、企業等を訪問し、機関からの各種の相談に応じている。相談の内容としては障害のある、または障害の疑われる者への対応や指導方法の助言が中心である。行動観察を行う他、関係者より日頃の様子等について聞き取りを行い、対応方法や支援方針について協議を行っている。対象者に関することだけでなく、周囲の環境調整等についても必要に応じて助言を行い、各機関の支援機能の向上を目指している。

すすくサポートや子育てアシストなど、他の事業も併用している幼稚園・保育所(園)・認定こども園等から依頼を受けるケースが多い。また講師派遣のみでのつながりであっても、半年に 1 回など定期的に派遣を希望される例が増加している。

(2)子育てアシスト(年中児集団行動観察)

※外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)の一環として実施

乳幼児健診では育ちにくさに気付かれにくい子どもや関わりの難しい子どもに対して、適切な関与を共に考えていけるように地域での支援機能の向上を目指すことを目的としている。子どもの行動を観察し、気になる行動の原因を探索、支援を考えることによって園職員の行動理解と支援技術を促進している。

本年度は全 12 回の実施とし、保護者への質問票配布・返信を行う BASIC と、それらを行わず園内研修として行う LITE の 2 通りから各園が選択できる形とした。募集は幼稚園・保育

所(園)・認定こども園を対象とし、千葉市発達障害等に関する巡回相談事業および子育てアシスト事業説明会の実施と、文書配布により行った。

【実施園】

- ・幼稚園 3 区(花見川、稲毛、若葉)3 園
- ・保育園 5 区(花見川、美浜、中央、若葉、緑)5 園
- ・保育所 2 区(花見川、美浜)3 園
- ・認定こども園 1 区(美浜)1 園

【内 容】

- ・保護者への事前説明: 文書による趣旨説明 *
- ・保護者への事前調査: ご家庭で困っていること、気になることの確認 *
- ・集団場面での行動観察: 幼稚園での集団活動場面の様子を観察
- ・ミニ講座: 保護者を対象に趣旨説明と子育てミニ講座を実施 *
- ・職員と意見交換: 気になる子への対応方法などを協議
- ・保護者への報告: 各児への所見を支援センターで作成、園から報告 *
- ※LITE 実施園には意見交換の内容のまとめを作成し、園に送付
- ・保護者*、各園職員へアンケート
- ※*のついている項目は BASIC のみ実施(ミニ講座は園が希望した場合のみ実施)

【協力関係機関】

- ・養護教育センター ・各区保健福祉センター ・千葉大学教育学部 ・千葉市大宮学園
- ・千葉市療育センター療育相談所 / すぎのこルーム / 相談支援事業所ぱれっと

【実施結果】

	形 式	人 数	障害の 診断あり※1	相談機関等 を勧める※2	対応方法 アドバイス※3
美 浜 区 A 園	LITE	8	1	1	8
緑 区 B 園	BASIC	26	0	6	14
美 浜 区 C 園	LITE	16	2	2	12
若 葉 区 D 園	LITE	5	0	1	5
美 浜 区 E 園	BASIC	24	4	2	14
花見川区 F 園	BASIC	22	3	2	15
中 央 区 G 園	LITE	14	0	3	12
花見川区 H 園	LITE	21	0	8	15
若 葉 区 I 園	BASIC	18	1	4	8
中 央 区 J 園	BASIC	23	0	1	8
稲 毛 区 K 園	BASIC	20	4	2	15
花見川区 L 園	BASIC	38	1	8	21

※1「障害の診断あり」は、疑いも含む。

※2「相談機関等を勧める」は、相談継続中の場合は除く。

現時点での勧めではなく、経過観察後の様子によって勧める場合も含む。

※3「対応方法アドバイス」は、子育て全般に関しても行っている。

【考察】

今年度も昨年度に引き続き、子育てアシスト BASIC・LITE の 2 つの形態で募集を行った。

LITE での実施が 5 園(うち初実施 4 園、実施経験あり 1 園)、BASIC での実施が 7 園(初実施 2 園、実施経験あり 5 園)となった。初めて実施する園では、保護者からの同意を得ることの難しさ、否定的な反応があるのではないかという不安から LITE が、既に一度実施経験のある園では、保護者説明に対する不安が少なく、保護者から見た子どもの情報を得られたり、返信文の返却があるなど、メリットの多い BASIC が選ばれる傾向にあった。

今年度実施園の半数が過年度に実施経験のある園であり、すすくサポートや機関支援等の他事業で連携を取っている園も多くあった。子育て支援や特別支援に精力的に取り組む園ほど、施設内部で抱えるのではなく定期的に対応を見直したい、外部からの助言を受けたいというニーズが高く、継続した連携に繋がりが易いと考えられる。一方で地域の子育て支援機能の向上という目的を鑑みると、他事業も含めて未実施園へどのように働きかけていくのかが今後の課題となると思われる。

(3)外部から講師派遣依頼を受けた研修(講義中心)

日付	名称	人数	内容
H30/05/26	衛生医療評議会・社会福祉評議会合同学習会	30	場所:千葉県教育会館 本館6階 608会議室 内容:「発達障害の概要について」 対象:医療・保健・福祉関係者 講師:発達支援員 上田 幸佳
H30/06/14	障害児保育研修	200	場所:千葉市役所 正庁 内容:「インクルーシブ保育における保育実践について～気になる子への対応～」 対象:幼稚園、保育所(園)、認定こども園等の保育士、教諭 講師:所長(相談支援員)仲村 美緒
H30/06/20	特別支援教育事例研究会	30	場所:植草学園大学附属弁天こども園 内容:事例研究～インシデントプロセス法による事例研究～ 対象:幼稚園、認定こども園 教諭 講師:所長(相談支援員)仲村 美緒、巡回相談員 稲葉 めぐみ、藤原 晶子
H30/06/29	千葉市ひきこもりサポーター養成研修 (ベーシック)	30	場所:千葉市こころの健康センター 内容:「ひきこもりの本人や家族への具体的な支援方法について」 対象:民生委員、関係機関職員、一般市民 講師:所長(相談支援員)仲村 美緒
H30/07/02	ペアレントトレーニング (基礎・演習)	50	場所:千葉市療育センター 内容:「障害児への支援技術向上研修～ペアレント・トレーニングの活用～」 対象:㈱AHCグループ 療育スタッフ50名 講師:発達支援員 上田 幸佳
H30/07/09	ペアレントトレーニング (基礎・演習)	50	場所:千葉市療育センター 内容:「障害児への支援技術向上研修～ペアレント・トレーニングの活用～」 対象:㈱AHCグループ 療育スタッフ50名 講師:発達支援員 上田 幸佳
H30/08/31	千葉市知的障害者相談員研修会	12	場所:でい・さくさべ 内容:「発達障害の理解と対応」 対象:千葉市知的障害者相談員 講師:所長(相談支援員)仲村 美緒
H30/09/06	施設職員研修	15	場所:地域子育て支援センター 子育てひろば・うたせ 内容:「ほめる子育てのコツ」 対象:子育て支援センター利用者 講師:発達支援員 上田 幸佳
H30/09/13	施設職員研修	12	場所:第二幕張海浜保育園 内容:発達障害の基礎知識と幼児期の対応について 対象:保育士 講師:発達支援員 上田 幸佳
H30/10/02	市町村アカデミー 障がい者福祉施策	48	場所:市町村アカデミー 内容:「発達障害の理解と支援」 対象:全国の市町村で主に障がい者福祉サービスを担当している職員 講師:所長(相談支援員)仲村 美緒
H30/10/17	特別支援教育事例研究会	30	場所:植草学園大学附属弁天こども園 内容:事例研究～インシデントプロセス法による事例研究～ 対象:幼稚園、認定こども園 教諭 講師:所長(相談支援員)仲村 美緒、巡回相談員 稲葉 めぐみ、藤原 晶子、山田 里美
H30/11/28	平成30年度 第2回稲毛区主任児童委員連絡会	24	場所:稲毛保健福祉センター 内容:「発達障害の理解と対応」 対象:稲毛区主任児童委員 講師:所長(相談支援員)仲村 美緒

H30/12/02	施設職員研修	14	場所:おゆみ野ふれあい館2階サクル室 内容:「発達障害のある子どもと保護者を地域で支えるために」 対象:かまとり子育てリラックス館、おゆみ野中央子育てリラックス館職員 講師:発達支援員 斎藤 幸佳
H30/12/14	第2回相談支援専門員研修会	30	場所:ハロー貸会議室千葉駅前 内容:「発達障害者支援センターについて」 対象:相談支援専門員、相談業務に従事する方、行政関係者 講師:所長(相談支援員)仲村 美緒
H31/01/22	ワークシステムサポートプログラム	4	場所:障害者職業総合センター 職業センター 内容:「発達障害について」 対象:ワークシステムサポートプログラム受講者 講師:就労支援員 川崎 正崇
H31/01/23	特別支援教育事例研究会	30	場所:植草学園大学附属弁天こども園 内容:事例研究～インシデントプロセス法による事例研究～ 対象:幼稚園、認定こども園 教諭 講師:所長(相談支援員)仲村 美緒、巡回相談員 稲葉 めぐみ
H31/03/01	施設職員研修	13	場所:まどか保育園 内容:発達障害の基礎知識と幼児期の対応について 対象:保育士 講師:発達支援員 斎藤 幸佳

3. 普及啓発・研修

講演会や研修会により、発達障害に関する理解の普及啓発を図るものである。一般市民や関係者を対象とした啓発イベント・研修会を開催し、発達障害への理解浸透を図っている。

①主催講演会

日付	名称	人数	内容
H30/09/01	第1回発達障害講座 「自分らしく働くために～発達障害者の就労の現状と課題～」	198	場所:千葉市総合保健医療センター5階 大会議室 内容:基調講演「発達障害者の就労の現状と課題」 講師:植草学園大学客員教授 野澤和弘氏 パネルディスカッション「自分らしく働くとは」 座長:植草学園大学客員教授 野澤和弘氏 コーディネーター:発達障害者支援センター 就労支援員 川崎正崇 パネリスト:当事者の方、職場や支援機関の支援者の方
H30/11/10	第2回発達障害講座 「発達障害児の理解と支援～幼児期の対応のポイントと保護者支援～」	152	場所:千葉市総合保健医療センター 内容:「インクルーシブ保育における発達障害児とのかかわり方」 講師:植草学園大学名誉教授 木下勝世先生 「専門職から見る発達障害のある子どもの特性理解と支援方法」 講師:千葉市療育センターやまびこルーム ルーム長(ST) 齊藤公人 千葉市療育センター療育相談所 主任作業療法士 志村身 and 子 発達障害者支援センター 発達支援員(心理) 上田幸佳
H31/02/02	第3回発達障害講座 「基礎からわかる発達障害」	250	場所:千葉市生涯学習センター 内容:「基礎からわかる発達障害」 講師:立正大学名誉教授 中田洋二郎氏 ※千葉市発達障害者支援センター、千葉市生涯学習センター 共催

②地域住民等に対する普及啓発

日付	概略	内容
H30/04/07	第10回世界自閉症啓発デーinちば ～みんな大切な仲間です～	内容:キャラバン隊(寸劇、疑似体験)や自閉症の方たちのミニコンサート 作品展示、千葉県自閉症協会や各発達障害者支援センターの案内、パネル展示など 場所:きぼーる1階アトリウム
H30/07/26	第6回千葉こどもの心教育医療研究会	千葉市発達障害者支援センターの概要説明
H30/08/06	施設見学 いずみの家 実習生	千葉市発達障害者支援センターの概要説明
H30/11/13	施設見学 千葉市子育て支援施設職員	千葉市発達障害者支援センターの概要説明
H30/12/11	施設見学 植草学園大学、植草学園短期大学	千葉市発達障害者支援センターの概要説明
H30/12/26	施設見学 いずみの家 実習生	千葉市発達障害者支援センターの概要説明

③関係施設・関係機関等の連携

日付	協議会名称	開催地	内容
H30/05/01	第1回 特別支援連携会議作業部会	養護教育センター	(1) 平成29年度第3回作業部会の議事録報告 (2) 平成29年度第2回特別支援連携会議の議事録報告 (3) 今後の方向性
H30/05/22	第1回特別支援連携会議	ポートサイドタワー	(1) 平成29年度第2回特別支援連携会議の議事録報告 (2) 平成30年度第1回特別支援連携会議作業部会の議事録報告 (3) 今年度の検討課題について
H30/06/01	千葉市子ども・若者支援 協議会代表者会議	千葉市役所8階正庁	(1) 千葉市子ども・若者支援協議会設置要綱の改正について (2) 平成29年度千葉市子ども・若者支援協議会活動報告について (3) 平成29年度千葉市子ども・若者総合相談センターLinkの相談状況について (4) 平成29年度千葉市ひきこもり対策 (5) 平成30年度千葉市子ども・若者支援協議会活動計画について (6) 平成30年度千葉市ひきこもり対策事業について (7) 平成30年度千葉市子ども・若者総合相談センターLinkの民間委託について
H30/06/25	美浜区子育て支援 ネットワーク会議	美浜保健福祉センター	(1) 各機関活動紹介 (2) 情報交換
H30/07/09	千葉公共職業安定所管内 障害者雇用連絡会議	千葉公共職業安定所	(1) ハローワークにおける障害者関係業務について (2) 障害者の雇用支援制度について (3) 障害者虐待防止、障害者差別の禁止及び合理的配慮について
H30/07/11	第14回千葉市地域自立支援 協議会 全体会	千葉市 総合保健医療センター	(1) 平成29年度千葉市自立支援協議会活動報告 (2) 平成29年度における市事業等の報告 (3) その他
H30/07/25	第2回 特別支援連携会議作業部会	養護教育センター	(1) 研修会 講師：淑徳大学准教授 松浦俊弥先生 (2) 報告・協議 ①平成30年度第1回特別支援連携会議の議事録報告 ②連携サポートリスト ③個別の教育支援計画幼保版 ④連携協議会について (6) 諸連絡 (7) 閉会の言葉
H30/08/07	子育て支援ネットワーク 会議	中央コミュニティセンター	(1) 母子健康包括支援センター及び産後ケア事業について (2) グループワーク (3) 関係機関との連携についてのケース (4) 幼保支援課より連絡事項
H30/08/27	千葉市子ども・若者支援 協議会 第1回実務者会議	千葉市 こころの健康センター	(1) 構成機関における相談支援の事例発表 千葉市ひきこもり地域支援センター、千葉市子ども・若者総合相談センター Linkから相談状況報告・事例発表 (2) 千葉市子ども・若者支援協議会設置要綱の改正について (3) 各機関における支援状況・課題等について
H30/10/09	第4回 千葉市地域意見交換会	千葉市キャリアセンター	(1) ヒューマンソリシア(株)「障害者雇用の取組み」 (2) 事業所紹介 (3) 求人案内 (4) 連絡事項及び、情報共有
H30/12/03	第3回 特別支援連携会議作業部会	養護教育センター	(1) 報告 ①第2回作業部会議事録報告 ②連携サポートリスト ③幼保支援計画 (2) 協議 ①特別支援連携協議会に向けて
H31/01/22	第2回特別支援連携会議	ポートサイドタワー	(1) 報告 ①平成30年度第1回特別支援連携会議について ②平成30年度特別支援連携会議作業部会について ③今年度取組について (2) 協議 ①報告内容の承認について ②「特別支援連携協議会」設置について ③来年度の取組について
H31/01/25	千葉市高齢者等悪質商法 被害防止ネットワーク会議	千葉市中央区	(1) 平成29年度の事業報告について (2) 平成30年度の主要事業について (3) 障害者への相談対応について (4) 認知症の方の相談対応及び2次被害防止について
H31/01/30	第2回精神・発達障害者 雇用支援連絡協議会	千葉障害者職業センター	(1) 職業準備支援の実施状況について (2) 意見交換 (3) その他
H31/02/19	千葉県地域意見交換会	千葉キャリアセンター	(1) 研修会「内田クレベリン検査とは」 (2) キャリアセンター事業報告 (3) 求人案内 (4) 連絡事項及び、情報共有
H31/03/06	第2回 美浜区多職種連携会議	美浜保健福祉センター	(1) ミニレクチャー ①「精神障害者を取り巻く動向について」 ②「精神疾患についての理解」 (2) 事例紹介 (3) グループワーク (4) 補足説明 ①事例及びグループワーク ②精神障害者を支える制度や支援

4. サロン「しえるろっく」

発達障害の診断を受けており、診断名を告知されている18歳以上(高校生を除く)の方を対象とした茶話会を実施している。日常的な話題を中心としたコミュニケーションやアナログゲーム等の活動を通じて自分を表現する力、他者を理解する力の向上を目的としている。参加者は毎回5名程度で、全8回を行った。

活動の中ではグループをわけてゲームをするなど、より少人数でコミュニケーションを取る時間を作るようにし、参加者同士が関わりやすい環境を設定するよう工夫している。

本年度は昨年度から継続しての参加者が多く、回を重ね、顔を合わせることが多くなること

で、サロンでの会話をきっかけにもっと個別に情報交換をしたいという希望を持つ参加者も見られた。

5.ペアレント・トレーニング

発達障害児はその特性から叱責されることが多く、自信や意欲を失ってしまうことがある。ペアレント・トレーニングは発達障害のある子どもの行動を理解し、行動療法に基づく効果的な対処法を体験的に学び、よりよい親子関係づくりと子どもの適応行動の増加を目的としている。

○プログラム

【参加者】

・ADHDと診断された子どもの保護者6名(幼稚園児2名、小学生4名)

【内 容】

セッション1	オリエンテーション 子どもの行動を3種類に分けてみよう
セッション2	肯定的な注目を与えよう ほめ方のコツ スペシャルタイム
セッション3	好ましくない行動を減らすー無視とほめるの組合せー
セッション4	子どもの協力を増やす方法①ー効果的な指示の出し方①ー
セッション5	子どもの協力を増やす方法②ー効果的な指示の出し方②ー
セッション6	子どもの協力を増やす方法③ーよりよい行動のためのチャートー
セッション7	制限を設けるー警告とペナルティーの与え方ー
セッション8	これまでのふりかえり

【考 察】

本年度はグループとして活発な意見交換は少なかったが、各回セッション終了後に受講者同士で情報交換をしている場面が見られ、同じような悩みを持つ保護者同士の交流の場となっていた。終了後の感想では「ほめることでうまく切り替えられるようになった。」「好ましい行動が意外と多くてびっくりした。」「教わったことを家族で共有して取り組んでいる。」など肯定的な意見が多くあった。

対象がADHDと診断をされた子どもの保護者だけでは参加者が定員の8名に満たないことが続いている。今後、自閉症スペクトラムと診断された子どもの保護者のプログラムも検討していく必要があると思われる。

○リーダー養成研修

【参加者】

- ・基礎研修 児童発達支援事業者、放課後等デイサービス事業者 23名
- ・実務研修 児童発達支援事業者、放課後等デイサービス事業者 4名

【内 容】

- ・基礎研修 講義形式で各セッションの概略を説明
- ・実務研修 実際のセッション全8回を見学、その後に内容を説明

【考 察】

研修参加者から各事業所の職員に対しては、会議等での研修報告や、業務内で実際に取り組んでみる等、研修の内容を広める工夫がなされており、各事業所職員へのスキルアップにつながっている側面はあると思われる。一方で、リーダー養成研修の開始から3年目になるが、各事業所での実施には至っていないのが現状である。

本年度はペアレント・トレーニング実施施設を拡げていくためのアプローチとして、平成 28・29 年度の実務研修修了者に向けて実施の打診をした。打診の際、発達障害者支援センタースタッフが全ての回にサブリーダーとして参加し、サポートを行うことも提案したが、実施のための時間や人員の確保が難しいことを理由に各事業所で実施されることはなかった。

研修参加者の受講動機はペアレント・トレーニングへの興味関心や日常の子どもとの関わりに活かしたいというものが多く、自らが実際にグループ運営を行うために研修に参加している者は少ないのが現状である。研修から各事業所での実施に繋げていくためには、募集の段階でペアレント・トレーニング実施予定の有無などを確認し、実施予定のある施設から優先的に実務研修に参加してもらう等の対策が必要であると思われる。

事業内容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度 実績	
2. 相談支援・就労支援 (＊就労支援に重点を置いた支援が行われたケース)	(1)実支援人数・延支援件数		実支援人数	73	29	14	8	9	15	7	11	10	12	8	5	201	144
			延支援件数	107	130	95	109	113	128	121	127	120	135	94	110	1,389	1005
	① 年 齢 層	18歳以下		2	2	0	0	1	4	0	1	1	3	1	1	16	4
		19～39歳		54	22	12	6	7	9	5	6	7	7	5	3	143	108
		40歳以上		17	5	2	2	1	2	2	3	1	2	2	0	39	28
		不明		0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3	4
	② 障 害 種 別 (医師による 診断名で カウント)	自閉症		8	5	0	1	1	0	2	1	1	0	0	0	19	13
		アスペルガー症候群		21	6	4	0	0	2	1	2	0	1	1	0	38	39
		広汎性発達障害		25	9	6	3	0	2	1	1	1	0	3	0	51	40
		注意欠陥多動性障害(AD／HD)		9	4	1	2	6	4	1	4	1	3	3	0	38	26
		学習障害(LD)		3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	6
		その他(発達性言語障害・協調運動障害等)		3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2
	③ 相 談 方 法	来所		59	67	55	62	56	70	62	59	60	70	47	57	724	550
		訪問		3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	13
		電話		36	52	34	43	54	53	46	63	50	54	37	41	563	409
		その他(FAX・メール等)		9	10	6	4	3	4	13	5	10	11	10	12	97	33
	④ 相 談 内 容 (重複可)	相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい		4	4	9	3	5	3	8	9	12	13	4	9	83	8
		現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい		62	69	39	40	51	52	64	59	43	59	34	42	614	351
		利用できる制度について知りたい (手帳、年金、手当、障害福祉サービスなど)		0	1	0	0	0	2	2	0	2	0	2	0	9	3
		診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい		1	2	0	0	0	4	1	3	2	2	3	0	18	8
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい			4	2	1	2	1	0	4	0	4	1	2	2	23	12	
進路や将来の生活に関する相談をしたい			2	1	0	0	0	1	0	2	2	2	1	2	13	10	
対応困難な状況の改善について相談したい (強度行動障害、ひきこもりなど)			2	2	0	2	4	7	12	7	6	3	5	3	53	24	
今後の就労について相談したい			30	46	24	20	18	22	16	16	19	26	13	20	270	331	
現在勤めている職場に関する相談をしたい			37	42	48	64	53	64	59	65	56	57	44	47	636	285	
その他			14	19	15	24	25	20	18	13	25	21	18	15	227	51	
(2)相談支援・就労支援に伴う情報共有等 (調整会議)			5	4	4	6	2	4	7	2	4	0	2	2	42	48	
(3)相談支援・就労支援に伴う関係機関職員 への助言(機関コンサルテーション)			13	24	26	29	23	33	41	31	26	25	31	26	328	237	
(4)職場拡大のための企業等への啓発活動			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3. 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修	(1)センター主催又は共催で企画した研修	実施回数	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	3	2	
		延参加人数	0	0	0	0	0	198	0	152	0	0	250	0	600	431	
	(2)外部から講師依頼を受けた研修(講師派遣)	実施回数	3	14	15	18	12	16	11	13	14	14	11	6	147	111	
		延参加人数	4	60	290	142	37	58	95	51	71	142	24	22	996	1389	
	(3)((1)及び(2)の再掲) 教育関係者との合同研修会	実施回数	0	2	5	3	0	3	3	5	4	5	2	1	33	15	
延参加人数		0	38	240	10	0	202	80	163	50	45	252	3	1,083	264		
4. 関係施設・関係機関等の連携	(1)連絡協議会の開催状況	実施回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
	(2)障害者総合福祉法第89条協議会等への参加状況	参加回数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	(3)他の協議会への参加状況	参加回数	0	2	2	2	2	0	1	0	1	3	1	1	15	9	